ひとを育てる活動

いつになく多い公立への転校 －SCMSI 里子リストより－

8 月下旬、SCMSI から里子 40 名の現況リストが届きました。カレッジ卒業 1、結婚等による中退 5、公立への転校は 11 名で、残る里子は 23 名です。

教育制度改革以降、シニアハイスクール 11 年生になると、SCMSI に開設されていないコースを選択の生徒が公立に転出するケースが増えましたが、今回は他の学年でも「公立へ」が目立ちました。

チボリ民族の伝統継承を建学の柱に据える SCMSI の役割は今も変わりませんが、公立ができて子どもたちの選択肢が増えたのはよいことです。ただし、本年度の公立転校急増の背景には、近年観光が盛んになったレイクセブ町の新型コロナによる経済の落ち込みもあるようです。レイクセブにあるもう一つの私学マリーローン小学校も生徒数が激減したと聞きました。

レイクセブ町のコロナ感染者はまだ 2 名ということですが、近隣の都市部での感染拡大が続いており、ビーズ細工などの伝統工芸品を観光客に売って、子どもの学費を捻出している母親たちには厳しい日々となっています。

新型コロナ感染拡大の終息、セブ湖畔のホテルやレストランにも賑わいが戻ることを願っています。

誰ひとり取り残したくない － 辺境での教育普及 －

前 102 号 P3 で紹介の先住民族学校 ILS のアニータ先生から、新規事業、代替学校への協力打診がありました。

レイクセブ町辺境のティヌオスには 2 年間の幼稚園教育を担う ILS を除き、小学校もハイスクールもなく、特にハイスクールは、SCMSI 校も公立校も遠く、年限が 4 年から 6 年に延びてからは中退者の増加が目立ちます。

全国的にも増えているハイスクール中退者について、フィリピン教育省も技術習得、またはカレッジ受験資格取得ができる「代替学校」Alternative School/ALS の普及を図っています。日々地域で目にする中退者をほっておけないアニータ先生も、この 10 月から学校農園を実習フィールドにした農畜産コースから ALS 運営を始めました。コース後半では地元野菜でピクルス等を作る食品加工の授業も始める予定です。

週 1 回の講義を含む 10 か月（800 時間）の課程修了後、政府機関 TESDA の技能試験やカレッジ受験資格試験に挑戦することになっています。

辺境にあっても誰一人取り残したくないというアニータ先生の取り組みは始まったばかりです。講師謝礼等の協力要請は次年度事業計画の中で検討したいと思います。

10 月開講農畜産コース入学の 10 名とアニータ先生（青帽子）

夢をかなえてくれた奨学金 －卒業生ジミーより－

「お元気ですか？　僕は今コロナ対応の自宅学習用プリント作りに忙しくしています」8 月半ば、元奨学生ジミーからメールが届きました。約 1 年ぶりです。教師としての日々をと寄稿を依頼しました。届いたのは夢がかなうまでの道のりと感謝を綴ったものですが、抄訳をお伝えします。

・　・　・　・　・

34 歳になった今も、教師になりたいと思っていた子どものころのことをよく思い出します。食事はたいてい日に 1 回だけで、兄弟たちと畑仕事を手伝いながら、いつかよいことがある、頑張れば何か変わると思っていました。

小学校は CMB(現 CMIP)がキアミに作った学校に通いました。エドウィン（元奨学生・現公立小教師）と一緒で、卒業時トップはエドウィン、僕は 2 番でした。ハイスクール進学を希望しましたが、一番近い学校でも、橋のない川を 36 回渡らなくてはなりません。また入学金も必要です。

小学校卒業式後の余興、のど自慢大会優勝者に賞金が出ると聞き、歌が好きだったので参加しました。300 ペソ（約 660 円）いただいて、とりあえずハイスクール入学手続きができると嬉しかったのを覚えています。

その時、ライバルのエドウィンが HANDS 奨学生になったと聞きました。通知表の成績はほぼ同じなのになぜ？　そこで担当の神父に直談判しました。懸命さが伝わったのか、奨学生枠最後の一人に入りました。のど自慢でもらった賞金は病気の姉の治療費に回し、残りはジェネラルサントス市内のノビシエート寮までの交通費に充てました。

ハイスクールを終えて、カレッジは国立 MSU 情報処理科に進み、卒業後は夢だった教師を目指して国家試験に挑戦、地元の公立ハイスクールの数学の教師になりました。

あの時、HANDS 奨学生になれなかったら、教師になる夢も実現できませんでした。感謝でいっぱいです。

（　）内の註他文責：山崎

数学オリンピック地区予選参加の生徒を引率のジミー（左端）

新あしなが奨学生はビラーン民族の 18 歳と 32 歳に決定

チボリとマノボの村ブラクールの教師育成が目的の「あしなが奨学金」はその役割を終えてからも、元 FOT 会員 5 名により、先住民族の専門家育成を支えてきました。この貴重な奨学金を今年受領するのは、ポーリーン（写真上）とジナッフェ（下）の 2 名です。ともに兄弟姉妹が 13 名の大家族で、ポーリーンは末っ子です。3 月卒業時成績は 90 点と優秀で、家族の期待を背負っての進学です。ジナッフェも卒業時 89 点で教師になりたい夢を持っていましたが、弟妹のために働き続け、32 歳の今年夢の第一歩を踏み出すことになりました。なお、8 月に開始の授業は未だプリント教材とオンラインで新入生には厳しい環境となっています。